

## 現在の担当職務

- ワシントン市、クーダート・ブラザーズ社上級弁護士。通信、情報技術分野
- コンピューター通信国際評議会会長
- アメリカ法律協会・法律図書館常任委員会会長
- GLIN 基金会長・評議員
- 米国アーサー C. クラーク基金執行理事
- サンディエゴ州立大学、準教授(通信)

## 経歴要旨

### テッドソン・J・マイヤーズ

テッドソン・J・マイヤーズ(知り合いからは「テッドソン」と呼ばれています)は、1996年クーダート・ブラザーズに通信関係の法律家グループを引き入れて以来、同社とパートナーであり続けています。氏はワシントンにあるクーダート・ブラザーズの通信業務グループの長であり、一般運輸、人工衛星システム(製造・保険・打ち上げを含む)、送信システムとコンピュータ科学の最新技術、放送とネットワークなどに関する分野における法律相談および契約締結に長い経験を有しております。氏は、たとえば高解像度テレビなどに関する米国および国際規格の設定にも長年かかわり、米国内および国外からの依頼人のために、米国あるいはその他の国の法律環境のもとで、相談役・代理人としての仕事をしてきました。

クーダート・ブラザーズ社においては、法律関係チームの仕事として、法律、財務、合併と買収、軍隊の調達、通信分野での国際貿易などに関する法律的な仕事をしてきました。現在は、電子的通商、データ保護とプライバシー、高画像テレビのプロモーションに力を注いでいます。

マイヤーズ氏は、通信関係の国際法規のパイオニアとして広く認められています。ジュネーブにある国際通信ユニオンあるいは他のフォーラムにおける通信のベテランであり放送関係の代表でもあります。氏はまた、アメリカ法律家協会の科学技術部門の中の国際通信委員会の創始者の一人でありまた委員長もつとめ、国際通信ユニオンの連続通信会議における「法律と法規のフォーラム」を発足させました。さらに、国際通信法に関する米国国務省顧問団の初代メンバーであり、1983年の「世界通信の年」の米国における行事のディレクターでした。現在は、サンジエゴ州立大学の通信準教

授、コンピュータ通信国際評議会の会長、米国アーサー・C・クラーク基金の執行理事のほか、アメリカ法律協会・法律図書館常任委員会会長などをつとめています。公共サービス分野に長年献身し、アメリカ内および国際的にさまざまな慈善事業に携わっています。その中に、多くの国々から提供され、NASAより配信される法令のデジタル・データベースである法律図書館の国際法律情報ネットワークがあります。また、通信分野における米国および国際的な多くの組織(ワシントンDCでのサイバーセンチュリー・フォーラム、中華人民共和国北京での情報基盤と経済開発センター(CIIED)、カリフォルニア州サンジエゴでの日米通信研究所など)の顧問もつとめています。ウェストポイント陸軍士官学校の二百年記念を組織進行するグループの顧問でもあります。

アメリカの放送会社ABCの「米国法規・ニュース・公共部門」の顧問をつとめたあと、マイヤーズ氏は米連邦通信委員会(FCC)会長の補佐となりました。このFCCで、氏がチャンネル13を公共サービスのチャンネルに移行させるために尽力したことにより、ニューヨーク市周辺が公共テレビを確保したことはよく知られています。その後、ユナイテッド・ステーツ・ピース社の教育放送国外プロジェクトの部長補佐および部長をつとめました。この仕事により氏は開発途上国の多くの土地を訪れ、公共ラジオ・テレビ放送を援助するために各地の政府首脳と協議する機会を得ました。

マイヤーズ氏は専門分野の種々の問題について多くの出版また講演を行なっています。出版物は次のようなものがあります。「国際間データ交流に対する信頼性の限界—法規緩和の結果」16ケースウエスタン・リザーブ大学国際法雑誌(16 Case Western Reserve Journal of International Law)203(1984年)、「国境を越すデータ流通—米国の場合」#35211;通しの欠落」#12301;1982年カナダ国際法審議会大会の会報(Proceedings of the 1982 Conference of the Canadian Council on International Law)110(オタワ1982年)、「契約締結に向けての新しいアプローチ」サテライト・コミュニケーションズ1986年10月号(弁護士デビッド・G・ヘインズと共著)、「国際的同盟の形成—その落とし穴」1993年ビジネス・ウィークの通信に関する会議(Business Week Conference on Communications, 1993)、「基本的通信に関するWTOの交渉」1996年国際商業会議のための米委員会(U.S. Council on International Business Conference, 1996)、ユカワ・マサオ「日本の敵は日本」の紹介、1999年東京(Japan's Enemy is Japan, 1999)、トロント大学法学部第2回年間グラフスタイン講義「通信法律における現在の職務の本質」(The Nature of Contemporary Practice in Communications Law, the Second Annual Grafstein Lecture, 2000)。また、氏は招聘されて米国国務省と米国文化情報局のために、国外の産業界と政府首脳部に対して通信関係の問題に関して説明を行ないました。

マイヤーズ氏は、ハーバード大学法律学校 (Harvard Law School) を1953年に卒業、同大学のハーバード立法研究所の創立にかかわり所長をつとめました。ハーバード大の前には、オハイオ州立大学で学び、ニューヨーク大学から学士号と修士号を受けました。ハーバード大卒業のあと、氏は韓国の米国海兵隊で指揮官としてつとめました。首都ワシントンのアダムズ・モーガン住民組合に初期から参画し、米大統領から以前のコロンビア特別区 (ワシントンDC) のメンバーに指名され上院に正式に認められました (1972-75年)。

妻はアーデン・ブランナン・マイヤーズで、三児の父親および三児の継父として、氏はワシントンDCのコスモスクラブの会員で1988-90年にはその会長をつとめました。また、やはりワシントンDCの陸軍・海軍クラブの会員でもあります。氏の名前は、「アメリカ紳士録」を初めとして「世界紳士録」「財界と産業界の紳士録」「米国法律界紳士録」「国際通信法律家紳士録」などに載せられています。

Copyright © 2002 Tedson Meyers.